

地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20 年 2 月 25 日
事業所名	2371501277
事業所番号	グループホームなでしこ猪子石原 2階
記入者名	職名 ホーム長 氏名 川上園美
連絡先電話番号	052-774-6701

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でグループホームを認識してもらえよう働きかけを通して、入居者にとって当たり前の日常生活が送れるような援助により、『その人らしい尊厳ある生活を大切に』という理念を持っている。	○ 当ホームの理念である『尊厳ある生活』とはの追求を地域の中でどの様に作っていくか
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的なミーティングで理念については常に話題とし、ケアカンファレンスでは理念を念頭に置いた視点での話し合いを心がけている。	○ 『その人らしい尊厳とは何か?』を年間目標として、毎月の月目標を定めスタッフ間との理念共有と啓発を試行している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	開所前の地域住民への説明会では、参加された住民の方には認知症への理解はそれなりに得られた感じている。家族来訪時の情報交換時や家族会では理念・方針について理解を得られるよう話している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩、買い物で挨拶を交わしたり、近隣の保育園の散歩時に園児と声を掛け合ったり、町内会に加入して回覧板等による情報も得ているが、イベント等への誘いには、まだ反応は見られない。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入、自治総会への出席、地域行事への積極的な参加、運営推進会議の定期的な開催等、出来る限り交流する場を作るようにしている。	○ 今年度は自治会の組長なので地域住民との交流を深めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ボランティアや実習生など、要請は受け入れたいと思っているが、まだ実績は無い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を参考にして、スタッフ間で話し合い改善をした。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域活動が活発であり、意見、質問等は参考になる事が多い為、活かされていると思う。が、マンネリ化が新たな課題である。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	名古屋市の介護アドバイザー研修生の受け入れはあるが、定期的な意見交換の場は無い。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	知識を得るの必要性は感じているが、まだスタッフ間で共有していない。	○	数年前に、研修で少し知識を得たが、具体的内容について忘れた事が多いので、再度学習して、必要とされる機会があれば少しでも役に立てる情報を提供したいと思っている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束はもちろん、薬、声かけの仕方により、拘束、虐待にもなりえる事をスタッフ間の共通認識とする為、ミーティング等で議題にしている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	<p>トラブルを避ける為、より一層の家族との協同ケアの視点からも、過去の事例より、事前に理解を得ておいた方が良いと思われる事柄については重点的に伝えていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	<p>家族との情報交換は、入居者の穏やかな生活の確保に大きな意味を持つ事から、今後とも力を入れていきたい課題である為、方法は常に再考していく。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>今後、家族会に外部の有識者の参加を要請し、当ホームの関係者は席をはずした処で、要望、不満、苦情等を気軽に話せる場を設け、後日情報提供してもらうことによる、質の向上に努めたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	<p>スタッフへのアンケートに取り組みたいと思う。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>入居者の季節による生活パターンに合わせたシフト組みをしている。スタッフ急病の時は”お互い様”の気持ちで対応しあえる環境作りをしたいが、慢性的な人材不足により柔軟性に乏しい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	他の階からのスタッフ移動に対しては、常日頃それなりの関わりもある為、大きい影響は無いと思われるが、離職後のスタッフ補充が思うようにできない為(募集しても希望者がいない)、新スタッフへの負担が大きく、入居者にも影響があると思われる。	○	離職率の軽減の為、新スタッフへのバックアップを強化したい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新スタッフには最初に、当ホームの理念、方針を理解してもらう為、管理者から1~2日をかけて伝えることにより、互いに研修できる。 内外の研修に参加して、情報はミーティング等で発表、実習して共有し、スタッフ間のスキルアップに繋げている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市グループホーム協議会に加入して、研修等に参加し交流を持ったり、運営推進会議は、他のグループホームの管理者と互いに委員となり出席して連携を図っている。	○	他のグループホームとのスタッフ交換研修をしたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間は確保し、個別の部屋となっているスタッフルーム、ロッカールームがあり、ストレス軽減になっている。管理者、リーダーはスタッフの状況把握に努め、不満、不安に対して解消するべく対応を相談し心がけ、運営者にも常に報告している。 又、定期的な個別面談により発言の機会を持っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフがやりがいを持って仕事ができるように、将来に目的が持てるように、前向きな考え方を示している。 資格取得には積極的に支援する。努力しているスタッフは評価されている。又、定期的な自己評価により個々にあった支援の対策としている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時は家族から情報収集を行い本人の性格、生き方、状況等を捉えるようにして、家族を交えた関わりの中で数日間を過ごしてもらい、入居者の心情を踏まえた上で家族との距離を取って行くように進めている。	○ 入居時の家族からの情報収集を強化する。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	最初の見学の為の来訪時より、家族の思いを真剣に受け止め、グループホームに対して過小の評価も、過大な期待もされないように、事実をそのまま受け入れていただく為に十分な話し合いの場を持っている。	○ 今後は、管理者のみならず、リーダーや計画作成も同席して、家族の思いを受け入れた支援を目指す。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、当ホームへの入居のみならず、被援助者の必要としているサービスを見極め、話し合うようにしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が環境の変化による心身の影響を最小限にする為、入居時は家族と共に過ごしていただき、可能であれば家族にも宿泊してもらい、徐々に受け入れられる環境作りに積極的に取り組んでいる。又、数日間を通いで過ごしてもらいその後、入居とする方法も受け入れている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症であろうが、人生の大先輩として接し、出来なくなつた事をお手伝いする共同生活と捉える方針の共通認識を持ち、残存能力、潜在能力の引き出しに努めているかを常に確認しあっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の穏やかな生活は、当ホームと家族の相互理解と協力による支援でなければ築けないとの観点から、電話や来訪時には情報交換をすることを慣例としている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来訪頻度の少ない家族に対しては、電話連絡にて情報提供したり、来訪を促したりして、より良い関係作りのお手伝いをしている。	○	家族と入居者本人の意向が違う場合の歩み寄りの為、関係が拗れないように注意しながら、入居者の気持ちの代弁者となる努力をする。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の生活の継続の為にも、友人、親類等がいつでも気軽に立ち寄れるような雰囲気作りや、いつでも一緒に外出できる事を理解してもらい、豊かな時間を過ごしていただいている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活ゆえの人間関係は当たり前にあるので、入居者同士の相性も含め、気の合う仲間との関係がより良い日常生活の鍵となる事の重要性を認識し、ミーティング等でスタッフ間の情報の共有化をして、同じ視点での支援を目指している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在までの退去者は2名であり、うち2名は身体機能低下となり入院、死亡、あと1名は在宅生活に戻られたが、近隣ではない為その様な配慮はしていない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在に至るまでのそれぞれの生き方を尊重し、それまでの生活が継続出来るように、本人、又は家族等に日々関わる中で、傾聴、共感する事で、思いを表出できる環境作りにより、意向を引き出し思いに添えるようにしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は家族から情報収集を行い本人の性格、生き方、状況等を捉えるようにしているが、入居後の心身の状況に伴う変化もあり、再確認の為、センター方式のアセスメントシートを利用して、再度、家族から生活歴の情報収集をしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	収集した情報、日々の生活上での様子などから、それぞれの入居者の生活パターン、特徴、取り組む内容による意欲の有無等を注意深く洞察し、残存能力と照らし合わせた上での方向性を家族、スタッフで意見交換して決めている。	○ 入居者本人の意向と、残存能力、認知症進行の低下への取り組みという視点から、スタッフの意識付けによる洞察力強化を目指したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスを行い、スタッフ同士で話し合い、出された意見を踏まえてプランを作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化に応じてその都度、対応策を考えて状態に即したプランの見直しをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画は毎日、個別記録を記入する時に確認する方法をとっており、又、介護計画書は既存のプランの評価を書面上で明記し、家族にも提示している。	○	ケアプランに沿って援助がなされるべきであるとの重要性を、スタッフが再認識するように働きかけを強化し、的確な個別記録が提示できるようになる事により、尚、一層のニーズの引き出しに持っていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時には、24時間連絡が取れる認知症を充分理解している提携医師が指示、又は往診にて対応している。 本人が希望されれば急な家族等との外出、外泊は自由であるし、いつでも家族が宿泊出来るように寝具等は準備している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域催事への参加を積極的に行っている事で、地域からの認識は多少出来てきているが、協力体制までには至っていない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の集まりや食事会に定期的に参加するなど、社会資源の活用は出来る限り積極的に取り入れているが、他のケアマネジャーや、一部のグループホーム以外のサービス事業者との連携は無い。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は地域包括センターとの連携はとれていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前にも増して、柔軟に本人、家族の意向に沿ったかかりつけ医の定期的な受診(内科・眼科・耳鼻科)で適切な医療を受けている。定期受診以外の受診はかかりつけ医と連携がある医療機関で対応し、要望に応じて歯科往診も行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に理解あるかかりつけ医と提携をしている入居者が大半でありスタッフからの情報提供も定期的に行っている。	○	今後、認知症の進行により必要性を感じた場合は、メンタルヘルスケアの受診も考慮していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医と密接な関係にある訪問看護ステーションとの契約により、定期的な来訪で身体面の状況把握に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院となった場合は、積極的に情報提供、収集はしている。骨折等で入院され、リハビリはOT・PTとも相談し、日常生活がリハビリと捉えられる時期には、家族の意向を踏まえ、積極的に受け入れている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだその様なケースはないが、ターミナルケアを目指しているので、スタッフの技術、知識向上に意識を持ち、家族との話し合いにより医療関係者と連携しながら対応していきたい。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まだその様なケースはないので具体的なイメージは掴めていないが、終末期においては医療処置、医療管理が日常的に必要な場合は対応が困難であると家族には了解を得ているが、かかりつけ医や訪問看護ステーション、家族の協力を得ながら取り組みたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	まだその様なケースはない。	○	なるべく今までの生活が継続できるように、情報提供は出来るだけ行いたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念に掲げいつでもスタッフの目に触れる場所に貼り自覚するように心がけている。	○	ミーティング等でプライバシー、尊厳に配慮したケアが出来るよう課題としてしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	散歩、買い物などの外出希望があれば同行している。飲み物は基本的に何種類か用意して選んでもらう。	○	おかずを選べるような献立作りに取り組みたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の大きな流れはあるが、ここの生活ペースに添うように努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人希望で家族の了解を得て近隣の理容店を利用している。こだわりの店がある方には家族で対応してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一週間ごとにメニューを立て、楽しみを感じたり、個々の身体的レベルに応じた調理等に参加している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	選べる飲み物、おやつなど、好みに応じて対応できるように配慮している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを理解してトイレ誘導して、排泄の感覚を持ってもらっている。又、失敗を感じさせない介助、見守りをしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかではあるが、各入居者の希望する時間帯に入浴できるように配慮している。又、入浴を希望しない場合は足浴を勧めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	散歩、掃除、調理など身体レベルに合わせた日中の活動を促して夜間の睡眠が取れるように努めているが、昼夜逆転傾向の方がいる。	○	昼寝は30分程度にして、かかりつけ医と相談し夜間の睡眠確保を図りたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族、本人からの情報収集により、役割感の持てるような場の提供を二努めている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は、家族と相談して居室にて管理してもらっている。買い物希望時にはスタッフ同行で外出している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物は出来る限り出掛け、モーニング、外食、季節ごとの季節感ある外出、地域のイベント参加などを行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本煮の希望にはなるべく添うようにしているが、困難な場合は家族の協力を要請する、		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できるようにリビングにあり、はがきや切手は希望があれば一緒に買いに行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人が訪問しやすいように、いつも笑顔で迎え、オープンな雰囲気作りに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急、やむをえない場合を除き身体の拘束、行動の制限は禁止としている。	○	ミーティングで事例を取り上げ勉強して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、夜間のみ施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングでは全体が見渡せるので必ず一人は入る世にしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤、薬品、調味料等は誤飲、誤食しないようにする為、中身の見えないケースに入れ直接目に触れないようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	杖、歩行器などを使用している方の移動には必ず使用してもらおうような声かけをしている。誤薬予防として一人一人と日時、名前確認を一緒にして、飲み込み見守る。	○	一人、一人の予測される危険性を想定して、ヒヤリハットの活用に力を入れて行きたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全スタッフが、緊急時に対応できるよう再確認をして医療とも連携を取って行くようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回の避難訓練を行っているが、スタッフ不足により滞っている。	○	地域の人々にも協力を得られるよう働きかけたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	スタッフは個々に起こりうるリスクを把握している。又、家族とも話し合っている。	○	家族とも話し合う場をもっと作り理解を深めたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人、一人の持病、アレルギー体質等について把握できるように努めている。変化があった時はかかりつけ医や看護師に連絡し指示を受けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは投薬内容について把握に努めている。誤薬をしないように必ず一人分ずつ日時、名前を確認して介助、見守りをしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の為、食事の栄養バランス、水分摂取量の把握をすると共に、便秘予防体操に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1日3回の口腔ケアの必要性はスタッフも把握しているが、徹底されていない。	○	全入居者が食後口腔ケアをする習慣ができるようこどももつづけていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスの良い食事が摂れる様配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症のマニュアル作りをしている。	○	感染症について勉強会をして全スタッフが理解するように努めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	フキン、まな板等の殺菌、アルコールスプレーの常時使用生物の使用は出来るだけ抑え、利用時には熱湯をかけてから行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関、スロープに花を植えたり、植物を置いたりして季節感を出している。	○	来訪者が気軽に立ち寄れるような雰囲気作りをしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間が馴染みの場所であると思えるような環境づくりをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファ等で入居者同士仲良く過ごしていたり、居室で一人の時間を大切に過ごしていたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの状況に応じて畳に布団、ベッドと選択できるようにしている。使い慣れた家具等で環境の変化を少なくしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	1日に2回、窓を開けて空気の入替えをしている。又、空気清浄機も取り入れている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体機能の変化を考慮してそれぞれの生活環境の改善をしている。	○	今後も身体機能の低下に伴い、リスクを想定して改善していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	理解できない行動や失敗に対して原因が何か、どうすれば良いのかを日常的に話し合っている。トイレ、居室等に分かりやすく明示している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭の畑で野菜作りの水やりなどが出来るよう配慮している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)